

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 奈良市立済美小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒630-8325  
奈良県奈良市西木辻町5-2

E-mail seibi-e@naracity.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 227名 女子 236名 合計 463名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容について

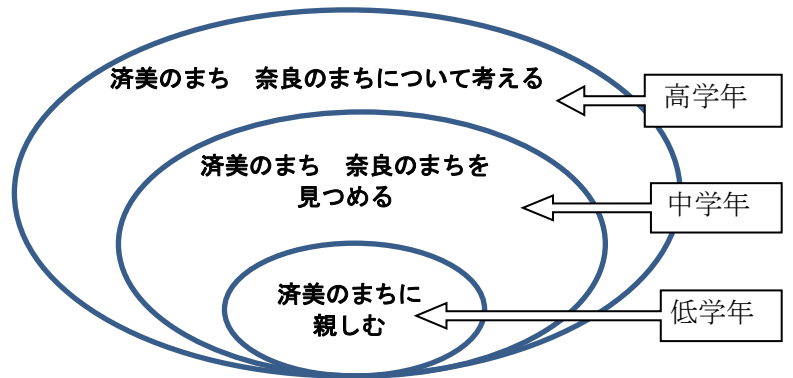
本校は、世界遺産学習を教育課程に位置付け、低学年より系統的な学習を積み重ねてきた。本校の近隣には、世界遺産「古都奈良の文化財」に含まれる元興寺や興福寺がある。それを活かし、地域に残る「人・もの・こと」を題材として生活科や総合的な学習の時間を中心に、いろいろな場面で世界遺産学習を展開している。これは、様々な視点から地域について自ら調べ、学び、考える学習を積み重ねることで、地域に誇りと愛着がもてるのではないかと考えているからである。そのため、低学年から空間も内容も同心円的に広がるような、地域について学び続けるカリキュラムをつくっている。

まず、1・2年生の生活科において、濟美のまちのよさを感じ、そこに住む人たちのやさしさに触れることで『濟美のまちに親しむ』。

さらに、3年生では、校区の様子を社会科で学習をしたり、総合的な学習の時間では奈良町について学習をしたりしている。また、4年生では、四季を通じて、奈良公園の自然を観察したり、地域の発展に尽くした人を調べたり発信したりする活動などを通じて、『濟美のまち・奈良のまちを見つめる』。

そして、5年生では、世界遺産見学や世界遺産を守るためにできることを考える学習を行っている。また、6年生での歴史学習をふまえた地域の遺産を探る学習などを通して『濟美のまち・奈良のまちについて考える』。

このように、低学年から、空間も内容も同心円的な広がりをもって地域について学び続けるカリキュラムをつくっている。特に、高学年では、毎年新たな教材を開発しながら取り組んでいる。



#### 【2016年度の実践から】

##### 1年生

『なかよしさんぽ』(生活科)

1学期は校内や校庭を散歩して、1年生はもちろん学校のみんなとなかよくなり、「わたしの学校」のよさを感じ取ることができた。



2学期は、木の葉・木の実集めなどの楽しい体験を通して、「わたしの奈良」のすばらしさに気付くことができた。校庭や家の近く、遠足のとき奈良公園で集めてきた木の葉や木の実を持ちよって、土曜参観では、保護者とともに「秋のかべかざり」作りをし、秋を楽しんだ。



3学期には、濟美幼稚園の児童とともに、地域の人たちから「けんだま」「こま」「お手玉」「はねつき」「あやとり」「ヨーヨー」「めんこ」などの昔の遊びを教えてもらった。

「なかよしさんぽ」を積み重ねていく中で、子どもたちは、『ひと・もの・しぜん』となかよくなって、自分の生活を楽しくしていく力を身に付けてきている。

#### 子どもの感想

- かべかざりをつくりました。いままであつめてきたどんぐりやはっぱをつかいました。パパといっしょにつくったかべかざりをはやくかざりたいとおもいました。
- たのしかったよ。いっぱいおしえてくれてありがとう。  
けんだまがじょうずになりました。また、おしえてくださいね。

## 2年生

### 『わくわくさんぽ せいびの町』(生活科)



1学期、身近な「せいびの町のすてきなところ」を紹介し合い、全員で町探検をした。夏休みには、自分でもう一度済美の町のすてきな人・もの・ことを見つけるために、町探検をした。

2学期には、見つけてきたことを紹介し合い、済美の町にはすてきなところがいっぱいあることを知った。そして「もっとくわしく知りたいな。お話を聞いてみたいな。」と思うところに、今度はグループに分かれて探検に出かけた。この探検では場所

を見るだけでなく、「人」に意識を向けインタビューに重点を置き触れ合いを大切にした。消防署や古いお寺、昔ながらの魚屋さん、ケーキ屋さん、お寿司屋さんなど10か所を決めて探検した。そこでお話を聞かせていただいたり「見て・触って・やってみる」など体験をさせていただいたりした。そして、インタビューさせてもらったお店について紹介する言葉を話し合ったり、それを踏まえてせいびの町の良いところを紹介する言葉を考えたりする活動に取り組んだ。その後、お世話になった方々にお礼の手紙を書く活動を行った。これらの活動を通して、自分たちの住んでいるせいびの町にはすばらしい場所がいっぱいあることや、すてきな人がいっぱいいることを知って、子どもたちは、ますます済美の町が好きになった。



#### 子どもの感想

- ・インタビューをしたら、どんなことでも答えてくださったのがすごいと思いました。今度はおうちの人と一緒に行ってみたいです。
- ・今までせいびの町にこんなにたくさんの方名さんがいるなんて知りませんでした。
- ・方名さんたちはみんなが笑顔になるためにお仕事をしてくれていて優しいんだなと思いました。せいびの町には「人じまん」がたくさんありました。

## 3年生

### 『もっと知ろうよ 済美の町を』(社会科・総合)

社会科の学習「校区をしらべよう」で済美の町がどんな町なのかを知るために校区探検をした。そして、校区にある奈良町は世界遺産に登録されている元興寺の旧境内を中心にした一帯であり、最近できた建物ばかりではなく、古くからある神社やお寺が今でも残っていることを知ることができた。

夏休みの自由研究では、校区探検で気づいたことや不思議に思ったことをもとにそれぞれがテーマを設定し、深く探究することができた。その研究をクラスで発表し、交流する中で、自分一人では気づけなかった校区の良さや昔から大切にされてきたものに改めて気づくことができた。

また、「おん祭」の学習では、「おん祭はこれからもつづいていくのだろうか」をテーマに学習を進めた。調べ学習を進める中で、おん祭は大和の人たちの幸せのために始まったことや、多くの人たちの支えによって880年間途切れずに続けられたきたことを明らかにすることができた。そして、自分たちも「大和の人たち」の一員であるという当事者意識をもち、「これからもおん祭を続けていきたい」「たくさんの方たちの思いを受け継いでいきたい」という思いをもつことができた。



### 子どもの感想

- ・ 校区たんけんをして、せいびの町には神社やお寺がたくさんあることがわかりました。むかしのものが今でものこっていてすごいと思いました。
- ・ 格子の家には、むかしの人たちのくふうがたくさんありました。むかしの人たちはいろいろと考えていて、すごいと思いました。
- ・ はじめは「おん祭」のことをあまり知らなかったけど、いろいろなことを知って、おん祭に行ってみたいと思いました。でも、見に行く人がへったり、祭りをするひとがへったりしているので、もしかしたらおん祭がつづいていかないかもしれないと思いました。だから、新聞をつくったり、チラシを作ったりして、おん祭の楽しさをいろいろな人に知ってもらえばいいと思います。わたしが大人になったら、自分の子どもといっしょにおん祭に行ってみたいです。

### 4年生

『奈良公園の自然観察』（理科・総合）

『平城宮跡の保存に尽くした棚田嘉十郎』（社会科）

『奈良筆づくり体験』（特別活動）



奈良公園の自然観察は、春・夏・秋・冬の4回、ほぼ同じコース（興福寺～国立博物館裏～飛火野）で実施した。4回とも毎回同じゲストティーチャーと共に定点観察を行い、四季のうつり変わりを感ずることができた。その中で、鹿が芝生を食べることによって広大な土地の芝生がいつも綺麗なことや、その鹿の糞はルリセンコガネによって分解されていることなど、生態系のバランスによって奈良公園の自然が保たれていることを学んだ。また、春の桜、夏のルリセンコ

ガネ、秋のイロハモミジやイチョウの紅葉、そして、冬の風物詩「鹿寄せ」などとの感動的な出会いを体験することができた。

また、社会科の「きょう土の発展につくした人」では、平城宮跡の保存に一生を捧げた棚田嘉十郎さんを取り上げた。植木職人であった嘉十郎さんは、平城宮跡に強い関心を持ち、私財を投じて一面田んぼになっていた跡地を買い取ったり、国に訴えたりして、保存運動につくした人物であり、現在の朱雀門横に嘉十郎さんの銅像が建っている。そんな嘉十郎さんの業績や生き様に学び、これから自分たちが世界遺産を守っていくことの大切さを感じることができた。



「わくわくセンター学習」で、はぐくみセンターを訪れた際には、奈良の伝統工芸の一つである奈良筆づくりを体験することができた。1300年以上前から使われ、今も自分たちが使っている筆がどのようにして作られているのかを伝統工芸士さんから学んだ。そして、実際に作ってみることで奈良筆に対する愛着をもつとともに、職人さんの技術の高さやそれを長く受け継いできている奈良の人の思いについて考えることができた。

### 子どもの感想

- ・ 奈良公園が鹿の糞だらけにならない理由がわかりました。それは、ルリセンコガネが鹿の糞を分解してくれているおかげでした。ルリセンコガネを見つけて、鳴き声も聞けてうれしかったです。
- ・ 棚田嘉十郎さんが自分のお金を出してまで平城宮跡を保存してくれたおかげで、私たちが知っている今の平城宮跡があるのだとわかりました。今は、観光客に「奈良の都の跡はどこですか？」と聞かれても、すぐに案内できることを嬉しく思いました。
- ・ 筆作りの作業の中で、ぼくは最後の2つをしました。繰込みと仕上げです。繰込みでは、筆の穴にナイフを入れて筆を回して穴を削りました。仕上げでは、筆の穂に「ふのり」をしみこませ、糸を巻いて引っ張ったり、手を使ったりして「ふのり」を絞りました。手に「ふのり」がついて気持ち悪かったのですが、筆が完成して嬉しかったです。今度自分で作った筆を使ってみたいです。

## 5年生

『見つけよう「奈良のすごい人」』（総合）

学習のはじめに世界遺産とは何かについて考えるため、エジプトのアブ・シンベル宮殿についてのDVDを視聴することから学習を始めた。そこから、「世界遺産とはなんだろう」と考え、さらに済美小学校の近くにある「旧JR奈良駅舎」も世界遺産と同じような流れで残った建物であるということを知り、実際に旧JR奈良駅舎を見学した。ここから、奈良に生きる一人として、この大切な思いを受け止め、永く大切に守られてきた多くの『たからもの』を次の世代、次の世代へとそのまま受け渡していくバトンランナーの役割を果たしていく責任があることについて考えることができた。



夏休みには、『済美のまち・奈良のまち 魅力再発見!』というテーマで自由研究に取り組み、奈良にある国宝や重要文化財やそこに関わる『すごい人』などについて調べ、発表した。

自由研究発表会を終え、「奈良にはもっとすごい人がいるのではないだろうか」という児童の意欲の高まりを確認したところで、まず、「これは一体何だろう」という発問とともに忍性さんのお骨が収められている3枚のお墓の写真を提示し、忍性さんという方のお墓だということの説明をした。そして、「どうして3枚のお墓にお骨が収められているのか」について考え、そこから忍性さんについて調べた。そして、調べた内容を学級全体で交流した後に、忍性さんの絵本を児童に提示し、「どうして絵本が作られているのかについて」考えた。



ゲストティーチャーとしてこの絵本を作られた浄土寺（三宅町）の住職さんに来ていただき、「どうしてこの絵本を作られたのかについて」お話をしていただいた。絵本という表現方法を用いて忍性さんを世間の方々に広めようとしたのかについて生の声で知ることができた。

「人」についての考えを深められたところで、世界遺産学習で奈良公園に行き、ボランティアガイドさんのお話を伺った。ここでは、正倉院に込められた光明皇后の思いに触れ、奈良時代に光明皇后もハンセン病患者

者に手助けをしたという話や、東大寺の大仏の顔の色と胴体の色が違うということに触れ、それにかかわった方々の思いや願いについて知り、深めることができた。

最後に1年のまとめとして、奈良の「すごい人」について、グループで深め、その人の思いや願いを中心に絵本にまとめた。そして、保護者や他学年に向けて完成した絵本の読み聞かせを行うことで『すごい』を発信した。



### 子どもの感想

- ・わたしたちの学校の近くにも、世界遺産のように守られてきたものがあって驚きました。この話を知ってから旧JR奈良駅舎を見ると、輝いて見えました。もっとたくさんの人に知ってほしいなと思いました。
- ・奈良には世界遺産がたくさんあります。今ある世界遺産一つ一つに、たくさんの人々の思いや願いが込められていることが分かりました。どんな思いで大仏や大仏殿を造ったのかを知って、これまで大切に守られてきたものを、これからも変わらずに未来へ残していかなければいけないと思いました。
- ・絵本を作るときに、何を一番伝えたいのかを考えることがすごく難しかったけど、がんばって作りました。絵本を読んで、「すごい人」の努力や、思いや願いをたくさんの人に知ってもらえたらうれしいなと思います。

## 6年生

『未来に残したい美しい奈良の風景を見つけよう』（総合）

6年生の児童は、低学年から「町たんけん」や「済美の地図づくり」、「奈良公園たんけん」など、地域の「人」「もの」「こと」を題材にして済美や奈良のよさを見つける学習を積み重ねてきたこともあり、済美のよさ、奈良のよさをよく知っている。夏休みの自由研究でも、テーマを自由とした中でも、奈良のよさ、済美のよさについてより深く調べてくる児童が多くいた。

社会科で学習したことをもとに、歴史的な背景にも興味をもって取り組めた。



そして、江戸時代、奈良の観光名所として知られていた南都八景をもとに、未来に残したい美しい奈良の風景として「新南都八景」の選定を行った。まず、自分たちの知っている奈良の名所を挙げ、その後、地域の人やお家の人、約 850 人に奈良の名所をたずねるアンケート調査をした。そして、その結果の上位 30 カ所から、自分が未来に残したい風景だと思う場所を選んで調べ、そのよさをプレゼンテーションし合った。学習参観日に発表し合い、保護者の方にも参加してもらい、それぞれのク

ラスで「新南都八景」を選定した。

最後に、6年間積み重ねてきた世界遺産学習を振り返り、凝縮ポートフォリオを作成した。



### 子どもの感想

- 江戸時代の南都八景のうち、見られなくなっている風景があると知って、すごく残念に思った。だから、僕たちが選定した新南都八景の 8 つの風景は、これからもずっと残ってほしいと思う。そのために出来ることはやっぴいこうと思った。
- お家の人にアンケートをすることで、改めて奈良には美しい風景がたくさんあるということがわかった。
- プレゼンテーションした風景のうち、8 つの風景しか新南都八景に選ばれなかったけど、どの風景も素晴らしかったので、全部未来に残していきたいと思った。
- 昔から守られてきた美しい風景を、今のわたし達も守っていかなければいけないと思った。そして、未来の人たちも、私たちと同じように、奈良の風景ってすてきだなと思ってほしい。

## 図画工作科

### 彫り進み版画「奈良」（5年）

奈良には世界遺産がたくさんある。5年生は世界遺産学習で奈良のことを学んでいるので、版画で奈良を表現することにした。テーマは世界遺産にこだわらず、奈良を表す建物。東大寺をはじめ、春日大社、興福寺、五重塔、唐招提寺、大極殿などを写真を見ながらではあるが、描き起こした。下描きの段階で三色の色分けをし、彫り進み版画にした。



はじめは仕上がりの予想がつかないと戸惑っていた子どもたちも、二色三色と色を重ね合わせていく度に、新鮮な驚きを持ったようであった。出来上がった作品に、「夜の大極殿」や「雨上がりの唐招提寺」等、イメージに合った題名をつけている。

子どもたちには、奈良の風景を愛し、愛着を持ってもらいたいと願っている。また、実際にその場所に足を運んでもらえたらと考える。



### 子どもの感想

- 「満月の夜の朱雀門」重ねる時ずれてしまっ、い和感があるけど、色が重なると他の色にも見えてきます。
- 「夕焼け空の東大寺」山が夕焼けで真っ赤に染まった東大寺を表現した。見たことはないけれど、想像してかいた。

【活動の成果】

世界遺産をはじめ、数々の文化遺産に囲まれて生活している子どもたちにとっては、それらは当たり前風景として存在するものであって、本当の価値やそれがそこにあることの意味を知らないままで過ごしているのが実状である。そこで、様々なアプローチで自分たちの住んでいる済美や奈良を見つめ、知ることによって、済美や奈良に誇りと愛着がもてるようになり、ひいては持続可能な奈良の担い手を育てることにつながると考えている。「奈良を知り」「奈良に触れ」「奈良の人と関わる」ことで、奈良に残る様々な文化遺産を未来へ大切に残し、繋いでいくその可能性が広がるものと信じている。

本校では、2008 年度より学校全体で世界遺産学習を教育課程の中に位置づけて取り組み、今年度で 10 年が経った。年を追うごとに、「こんな学習はどうか」「こんな活動もできるのではないか」と、職員みんなが新たな実践に取り組んでいる結果、各学年、各教科・領域において様々な実践が積み上がってきている。6 年間の地域を見つめる活動を通して、「済美や奈良の町が好きになった」という評価は、児童も保護者も高い。自分たちが住む、すてきな済美や奈良を大切に守っていきたいという強い思いが、児童の中に生まれてきている。奈良の多くの遺産は、放ったらかしにしては残していくことができない、そこには必ず人の力が必要だということを実感できるような学習や活動を今後も積み重ねていきたい。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )